

2040年の社会を生きる児童像と学校教育の在り方
 少子高齢化の中、持続可能な社会の担い手として多様性、質的な豊かさを伴った新たな価値を創造する担い手としての期待。AIの飛躍的な進化に伴う学校の存在意味の変化。その変化に向き合い他者と協働して課題解決し情報を精査・再構成して新たな価値につなげ目的を再構築することのできるような児童を育てる学校教育の在り方の見直しが必要。

学校教育目標
 ○やりぬく子
 ○思いやりのある子
 ○よく考える子

向山小の児童の実態
 ・学習に対して受動的であり、自分から課題を見付けることが苦手である。
 ・発信できる児童がいても、学び合いまでには至っていないことが課題である。
 ・国の学力調査では、東京都の平均と比較すると、国語・算数とも概ね上回っている。

各教科の指導の重点
思考力・判断力・表現力を中心に、三つの資質・能力を育成
 (国語)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
 (社会)社会的現象の特色等を多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
 (算数)数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて現象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて表したりする力を養う。
 (理科)観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
 (生活)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
 (音楽)音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
 (図画工作)造形的なよさ、表したいこと表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
 (家庭)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
 (体育)運動や健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (外国語)目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について聞いたり話したりし、外国語の語彙や表現を推測しながら読んだり語順を意識しながら書いたりして自分の考えや気持ち等を伝えることができる基礎的な力を養う。

生活指導の重点
 ○挨拶と言葉遣いを年間の重点目標とする。
 ○「向山スタンダード」を基にした学習規律、生活規律の定着を図る。
 ○「ふれあいアンケート」「生活アンケート」を活用した学校生活の心理的安定の保障。

学校経営方針
 ○学びに向かう力、人間性を涵養するとともに、家庭と連携を図りながらよりよい学習習慣を身に付けさせる。
 ○基礎的、基本的な知識、技能を確実に習得、定着させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する。そのために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、指導と評価の一体化を図る。
 ○個々の資質、能力の実態や家庭状況等に応じて個別最適な学びの充実を図るとともに、探究的な学習や体験活動等とおした協働的な学びを充実させる。その際、言語環境を整え、言語活動の充実を図るなど言葉を大切に教育活動を行う。
 ○主体的に学ぶ意欲と態度を育てるとともに、家庭と連携を図りながら望ましい学習習慣を身に付けさせる。

〔本校における「確かな学力」の育成〕
 よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の作り手になるために必要な資質・能力の育成
 ・生きて働く知識・技能の習得
 ・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
 ・学びに向かう力・人間性等の涵養
〔確かな学力の育成のための要点〕
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
〔主体的な学び〕
 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
〔対話的な学び〕
 児童同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
〔深い学び〕
 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり問題を見いだして解決策を考えたり思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

道徳教育の指導の重点
 ○週1時間の「特別の教科 道徳」を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、事故を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

特別活動の指導の重点
 ○集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
 ○集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組む中で互いのよさや個性、多様な考え方を認め合い、ひとしく合意形成に関わり役割を担うようにする。

外国語活動の指導の重点
 ○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

総合的な学習の時間の指導の重点
 ○実社会や実生活の中から問題を見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

キャリア教育の指導の重点
 ○望ましい勤労観や職業観を育むため、キャリア教育と各教科等との関連を明確に位置付け、自分と友達のよさを発見し、ともに高め合える学習活動を展開する。
 ○働くことの大切さや自分の生き方について考え、将来の夢と希望をもてるようにする。

| 本校の授業改善に向けた(主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のための)具体的方策 | | | |
|--|---|--|--|
| 指導内容・指導方法、教育課程編成上の工夫 | 校内における研究や研修の工夫 | 学習評価の工夫 | 家庭や地域との連携の工夫 |
| ・児童が見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた学習指導計画を立てる。 ・一単位時間の学習過程の工夫。聞くことを大切に、考えをつくる、広げる、深める、表現する、学習を振り返る活動を位置付ける。板書計画を基に、本時の学習課題またはめあて、自分の考え、友達の考え、まとめなどを必ず示す。 ・算数科における少人数習熟度別指導の推進。東京ベーシック・ドリルを活用した学力診断の実施、繰り返し指導、立ち戻る指導を徹底。3～6年(習熟度別編成)、1、2年生(学力向上支援講師によるT2指導)。 ・タブレットパソコン、電子黒板(デジタル教科書)、実物投影機等のICT機器を活用した授業の実施。学習の視覚化、共有化。 ・図書主任と学校図書館支援員を中心として、年間を通じて読書活動を推進。朝読書や学校図書館利用、年1回の読書週間(本の探検フリー、読み聞かせ等)の充実。 ・国語科を中心に全教科を通して語彙指導を行い、語彙の質と量の向上を図る。年4回全校で俳句作りに取り組む。 ・行事の大幅な見直しにより授業時数の確保に努める。 | ・校内研究を研究主題「自ら関心をもち、考え、行動しようとする子の育成～わくわくする単元づくりをめざして～」とし、主として「総合的な学習の時間」「生活科」の研究授業を通して授業改善を図る。 ・若手教員に対して、OJT年間計画に基づいた研修会等を実施し、授業力向上を図る。 ・年2回の授業観察期間等を利用してお互いの授業を積極的に見合う機会を数多く設ける。 ・Off-IT(教育会の研究部会、外部団体の研究会・研修会、指導教諭による模範授業等)への積極的な参加を促し、資料等を校内で共有する。 | ・年間指導計画に沿った確実な実施と評価各教科、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動の学習を年間指導計画に沿って確実に実施し、評価計画に基づいて形成的、診断的評価と指導の改善を行い、学習意欲の向上を図る。評価に際しては、ワークテスト、学力調査、診断テストなどの数値データを活用し、児童の変容を客観的に把握する。 ・一人一人のよさや成長に目を向け、日常的な評価を行う。活動中の支持的・支援的な言葉掛け、ノート、ワークシート、作品等へのこまめなコメントを心掛ける。 | ・「学校・地域連携事業」を活用して、放課後自習教室「向山Study Room」を実施する。 ・総合的な学習の時間では、ゲストティーチャーの招聘、体験的な活動を指導計画の中に位置付ける。 小中一貫教育の視点 ・小中一貫実践校として中学校との連携を一層図る。特に家庭学習の連続性を図るため、家庭学習実態調査等を基に家庭学習の定着を図る。 |
| 授業改善策の検証方法 東京ベーシック・ドリル診断テスト結果、日常の授業観察、児童・保護者アンケート等により検証・改善・実践・報告に努める。 | | | |